

令和7年度 第1回川崎市社会教育委員会議・中原市民館専門部会 会議摘録

- 【日 時】 令和7年6月23日（月）10時00分～12時00分
【会 場】 中原市民館第2会議室
【出席者】 川崎部会長、日吉副部会長、五十嵐委員、赤野委員、木村委員、山本委員
【欠席者】 安藤委員、山田委員
【事務局】 福田担当課長、船津課長補佐、中島職員
【指定管理事業者】 土戸館長、高木職員
【傍聴者】 5名

専門部会の委員8人中6人が出席し、委員の過半数を満たしており、部会は成立。

〈資料〉

- 資料1 令和6年度 第4回川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会摘録（案）
資料2 令和7年度 中原市民館の管理運営について
資料3 令和7年度 中原市民館社会教育振興事業について
資料4 中原市民館専門部会とは
資料5 川崎市社会教育委員会議中原市民館専門部会委員名簿

- 1 開会
- 2 資料確認
- 3 専門部会委員紹介
- 4 中原市民館（指定管理者）職員紹介
- 5 中原区役所生涯学習支援担当職員紹介
- 6 専門部会についての概要説明

資料4について説明。

- 7 令和6年度第4回中原市民館専門部会の摘録（案）について

資料1について説明し、了承を得た。

- 8 議事

（1）報告事項

ア 市民館の管理運営並びに社会教育振興事業について

資料2 市民館の管理運営について説明（土戸館長）

- 木村委員） 2社による運営でシフト制ということだが、全体で職員は何人いるのか。
土戸館長） 約20人いる。館長、副館長のいずれかは毎日出勤している。

木村委員) 受付等でチームが分かれているのか。

土戸館長) 受付、駐車場、振興等でチームが分かれている。ホールと清掃は第三者委託している。

資料3 社会教育振興事業について説明(高木)

木村委員) 指定管理になってから事業を3人で行っていると思うが、直営のときは5人で担っていた。3人ともベテランであるため、仕事については大丈夫だと思うが、身体は一つであるため心配である。また、市民館事業はボランティアと一緒に作っている事業が多い。昨年度から事業に参加しつつ引継ぎを行っていたと聞いたが、ボランティア側に何かしら戸惑いがあったのではないか。

高木職員) 5人で行っていた仕事を3人で行うことに不安はあったが、館内で協力体制は構築されており、担当者不在でも代理が出来る状況ではある。また、情報共有もしっかり行っており、問合せに対する対応もできている。ボランティアについては丁寧に引継ぎが行われたが、緊張感の高い雰囲気になっていたことは否めない。専門性の有無よりは人と人との関係性の構築が優先だと考えている。

日吉副部長) 従来はホールと連携することが多かったが、現在ホールとの関係はどうか。

土戸館長) ホールは第三者に委託しているが、日常的に情報共有を行い、職員も市民館のことは覚える必要があるため、ホールスタッフに協力してもらい勉強している。

木村委員) 管理運営や社会教育振興事業のことではないが、市民活動センターとの協力関係はどうなっているか。

高木職員) 毎年行われている「ごえん楽市」に今年は市民館としても参加する。建物の使い方も含め、盛り上げ方を複数の団体と企画中である。フリースペースとラウンジの用途は異なっており、利用者が快適に利用できるように調整を進めている。

土戸館長) 日常清掃等は市民館が対応しているため、市民活動センターの総務担当者ともコミュニケーションを取っている。

(1) 報告事項

- イ その他
特になし。

(2) 協議事項

- ア 令和7年度の調査審議について

船津課長補佐) 資料4の2ページ目の最下部に過去の検討テーマが記載されている。これまでは2か年で1つのテーマに取り組むという方法を取っていたが、専門部会の回数的に無理がある。テーマを設定して何かしらの成果物を出すというのではなく、審議会という位置付けで行っていた時は行政側が審議事項を提示し、それについての議論を行っていた。

今回は利用者懇談会と専門部会の棲み分けについて議論していただきたいと考えている。意見を伺いたい。

山本委員) 利用者懇談会とはどういうものなのか。

土戸館長) 管理運営や事業、設備等について利用者の意見を高めようと考えているが、具体的にはまだ決めていない。市民館を利用している人たちだけの学びではなく、職員の学びも必要であると考えているため、職員と利用者の交流ができればいいと考えている。団体活動の活性化のため、悩みの共有や施設の有効活用の方法を話し合いたい。年2回実施することになっているため、何かのイベントに合わせてやることも検討している。

山本委員) ロッカーの抽選会の際に、ロッカーの利用希望者を集めていると思うが、単なる抽選会になっているのは勿体ないと考えている。そのような機会に意見を拾える場があればよいのではないか。しかし、ロッカーの抽選会は年度末であるため、次年度以降の意見にはなる。サークル連絡会では年度の真ん中の10月に交流集会を行って意見交換を行っている。体育室を利用することができない。ふれあいネットで全然取れない。午後は1つのグループしか使えない。条例で決まっているということで説明されてきたが、中原区は体育施設が駅周辺になく、高齢化の影響もあり、駅から遠いとどろきアリーナは不便である。このような要望があるが、利用者懇談会を開催したところで、夢が叶うのはいつになるだろうか。

土戸館長) ロッカーの抽選会や実習室の棚使用の調整会は現在集まっているだけとなっているため、効率的にできるようにしたい。利用者懇談会実施に向けて、対象者や実施方法をこれから考えていく。

船津課長補佐) 中原市民館の利用活用について議論するのが利用者懇談会で、事業について議論するのが専門部会という位置付けにすればよいと考えた。何を議論するかというのが回ごとに決まっていれば、それぞれの会で審議したものを成果とすることができるのでは、その辺はどうか。

日吉副部長) 2年ごとにテーマを決めて、それに取り組むのは専門部会としてどうなのかと考えていた。市民館の事業や現在の困りごとについて、その都度専門部会で議論できたらいいと思う。

船津課長補佐) 事業実施について議論したことがこれまではないため、今後それができるようにしたい。

川崎部会長) 確かに見直す必要がある。

日吉副部長) ただの報告会にはならないようにしないと。委員の意見を取り入れてもらえるようなテーマである必要がある。

川崎部会長) 利用者懇談会に専門部会のメンバーで出席し、長く利用してくれている利用者と最近の利用者とのギャップを埋める丁寧な説明も必要だろう。

船津課長補佐) 過去にも利用者懇談会と専門部会の棲み分けができておらず、利用者懇談会が単なる苦情の場になったという話もあり、これまで中原市民館では開催していないが、今回指定管理者制度が導入され、中原市民館指定管理の仕様書に利用者懇談会の実施が明

記された。誰を出席者とするのか、どのような形で開催するのかは指定管理者に委ねられる。山本委員) 専門部会のあり方は見直す必要がある。市民館だよりのリニューアルは画期的だった。キッズスペースも今は良いと考えているし、サークル祭の時の対応も迅速で良かった。思っていることを言ったらすぐに対応してくれると感じている。このような具体的な部分が改善されているのに、専門部会が2年ごとにテーマを決めて実施に及ぶまでの審議が長すぎるのは問題である。専門部会は報告書作成機関ではないのだから、改善可能な箇所から即着手する必要があるだろう。月日をかけずに行動する方向性にしたい。

船津課長補佐) 今起こっていることを投げかけて議論し、即改善につなげるのは良いサイクルを作れると考える。

川崎部会長) 委員を活かしていけたらいい。

木村委員) 管理運営、事業について報告してもらったが、場当たりの印象を受ける。私たちに配付資料に書いてあることや報告してもらったことしかわからない。委員が意見を出せるようなことを投げかけてほしい。困りごと等を伝えてもらって、その場で解決ができれば持ち帰って対処する。このようなキャッチボールができたらいいいと思っている。また、一つ一つの事業だけではなく、長期で考えた時にどういうことができるのかについて議論ができるのではないか。5か年計画がこうだと示してもらえれば意見を言うことができる。更に、市民館として大事にしないといけないものを伝える場にもしたい。今まで関わってきた人たちとこれから関わっていく人たちが学びあえる場、具体的な話と俯瞰した話ができる場にできたらいい。

五十嵐委員) 過去の検討テーマはどこに活かされているのか。テーマを考えるのは大切だが、それに取り組む方が大切である。指定管理になったことで、こんなことをテーマとしてやっていきたいから意見が欲しいと言ってもらえれば意見が出やすいと考える。

赤野委員) この先のことについて話し合いが出来たらいいと考える。

川崎部会長) それぞれの立場からしか意見は言えないが、だから8人集まっている。課題解決の場にできたらいい。

(2) 協議事項

イ その他

特になし。

9 その他

(1) 次回(第2回)専門部会の予定について

船津課長補佐) 次回は10月頃に開催予定。

(2) その他

特になし。

10 閉会